

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月13日

【評価実施概要】

事業所番号	3071200491
法人名	社会福祉法人 皆楽園
事業所名	グループホーム友愛
所在地	〒649-6424 和歌山県紀の川市畑野上272 (電話) 0736-77-2277

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年3月16日
評価確定日	平成21年5月18日

【情報提供票より】(平成 21 年 1 月 31 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 11 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.4 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,800 円	水道光熱費(日額)	330 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 900 円			

(4) 利用者の概要(1 月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.88 歳	最低	80 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	榎本医院、西歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長年地域福祉の実践に力を注いでいる皆楽園を母体とするグループホームの一つである当該ホームは、のどかな田園風景の中、特別養護老人ホームとデイサービスセンターが隣接されています。理念にもある誰もが利用したいホームを目指し、常に利用者や家族の視点に立ち個別対応に力を入れ、利用者の希望や意向に添った支援を心がけています。また管理者や職員同士は助け合いながら良い関係を築き上げ、数年間の離職者もなく、研修も含めた法人のバックアップ体制があり働きやすい環境が整っています。地域との関係も良く、行事を通じて相互交流を図ったり、災害時の一時避難場所としてホームを提供するなど、地域になくてはならない存在になっています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	利用者・家族の意向に添い、個別対応による支援を充実させるなど、前回の課題評価を基に職員で話し合い、出来る事から改善に取り組まれています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度の自己評価票は、ミーティング時に前回の自己評価票を見直し、修正点や課題を提議しながら作成するなど、職員全員で取り組まれています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員、法人職員、管理者等で2か月に一度、開催されています。会議ではホームから利用者の様子や取り組み、研修、防火訓練等の報告をして、参加者からは地域の情報を得ています。地域からはホームで困っていることはないか等の問いかけを頂き、有意義な会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に直接意見を聞くようにしています。ボランティアの受け入れも家族からの要望で同意書を取り書面で残す等、出された意見は職員間で話し合い、すぐに対処し報告しています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の区長から情報を得て、ふれあい農園の行事に参加し、野菜を頂くこともあります。地域交流の為に夏祭りに地域の方に遊びに来て頂いたり、昨年は地域の方の協力によるボランティアで出店に参加して頂きました。また、運動会等保育園児との交流や中、高、大学生の体験学習やボランティアの受け入れを行なっています。また地域の一人として地域の溝そうじへの協力を行い、法人敷地を防災時の一時避難場所として地域に提供しています。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	思いを一つとする法人内の3グループホームの職員が話し合い協働で作成、見直しされた理念には、地域密着型サービスとしての方針も含まれており、同じ理念を各事業所の理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員によって理念の受け止め方が違うので、会議等で話し合い理念の共有を図っている。また理念は家族や外部者等によく見えるように、玄関やリビング、事務所に掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区長から情報を得て、ふれあい農園の行事に参加し、野菜を頂くこともある。地域交流の為の夏祭りに地域の方に遊びに来て頂いたり、去年は地域の方の協力によるボランティアで出店に参加して頂いている。また運動会等保育園児との交流や中、高、大学生の体験学習やボランティアの受け入れをしている。また地域の一員として地域の溝そうじへの協力を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者・家族の意向に添い、個別対応による支援を充実させる等の改善を行なっている。また今年度の自己評価票は、ミーティング時に前回の自己評価票を見直し、修正点や課題を提議しながら作成する等、職員全員で取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族、区長、民生委員、市担当者、地域包括センター職員、法人職員、管理者等で2か月に一度開催されている。会議ではホームから利用者の様子や取り組み、研修、防火訓練等の報告をして、参加者から地域の情報を得ている。地域からはホームで困っていることはないか等の問いかけをもらうこともでき、有意義な会議となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への出席もあり、何か相談事があれば、電話等で相談にのってもらっている。地域包括支援センターとも協力体制が整っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者と家族がより多く会う機会を確保するため、利用料はあえて持参してもらい、家族の来所時に近況報告を行なっている。また、毎月利用者ごとに日々の暮らしや身体状況が書かれた手書きの様子報告書に写真を添えて郵送している。その際、預かり金の収支報告書と領収書を同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に直接意見を聞くようにしている。ボランティアの受け入れも家族からの要望で同意書を取り書面で残す等、出された意見は職員間で話し合い、すぐに対処し報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内異動以外に職員の離職はなく、管理者は日々利用者の様子を見るとともに、職員の様子をも見逃さず、何か変化があれば声をかけるようにしている。常に職員同士でも助け合い、シフト変更や緊急時の対応にも全員で協力し合っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員はグループホーム連絡会主催の研修会等に習熟度に応じて参加、ミーティング時に発表し伝達研修を行っている。法人内においても年間研修計画を立て、それに添って希望職員が受講している。内外研修は資料、報告書を残し職員間で情報を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県グループホーム連絡会に加盟し、管理者のみならず、職員の相互実習や研修を通じて同業者としての悩みや意見交換の場となっている。また法人内では利用者も含めて交流も多く、行事の際にも行き来している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	法人内のサービスを使用していた利用者からの希望者も多く、職員や家族と見学に来てもらい、利用者や職員と過ごしてもらっている。また職員が自宅や利用している事業所に向いて話を聞くようにしている。入居後も、落ち着かれるまで家族の協力を得たり、出来る仕事をしてもらいながら、馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から昔の知恵や畑作り、料理等を教わり、梅干しや干し柿等を一緒に作っている。利用者同士の仲も良く、一緒にトランプやゲームを楽しみ、利用者や職員は喜びだけでなく悲しみも共有し、支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや意向はセンター方式を利用し、情報収集をしている。なかなか思いを口に表せない利用者には、職員が声をかける際に、表情や態度で把握したり、家族に聞いたりしながら思いを受け止めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントで得た情報や、利用者・家族の希望をもとに事業所独自の出来ること出来ないことシートを作成し、ケース会議において職員間で話し合い、介護計画を作成している。	○	事業所独自に見やすい介護計画を作られているが、番号の振り方等利用によって記入方法がまちまちである。日々の介護記録への連動性を考える上においても、記入方法の統一を図られてははいかがでしょうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画に添って、利用者毎に一日の流れを記入し、変化があれば支援経過に記載している。介護計画は3か月毎に見直され、1か月単位でモニタリング、評価をしている。状態に変化が見られる利用者はその都度会議を開き見直され、新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	職員は利用者の希望に添って、通常の通院介助や馴染みの美容院への外出、嗜好品等の買い物、墓参り等の支援を行っている。また親族の入院先へ見舞に何度も訪れ、告別式への出席、その後の精神的ケアに至るまで個別に深く関わり、利用者を支えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員が以前からのかかりつけ医を継続受診されているが、緊急の場合を考慮してなるべく近くの主治医を利用してもらっている。夜間や緊急時もそれぞれの主治医の指示に従い、往診にも対応してもらっている。また隣接の法人看護師の協力を得ながら日々の健康管理にあたっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に際してのホームの対応は退居に関する事項として契約書に記載し、同意を得ており、ホームとして最大限の努力はするが限界があることを家族にも伝えている。家族や主治医、職員が相談しながら、利用者にとっての今を大切に支援されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者個々に合わせた言葉かけをしている、。他の利用者の前でも尊厳が保てるよう配慮し、不注意な声かけ等については管理者も含め職員同士で注意しながらケアにあたっている。個人ファイルは事務所の書庫に鍵をかけて保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームとしてのスケジュールは決めず、起床・就寝等についても利用者のペースに合わせている。声掛けはするが無理強いことなく、テレビを見たり、昼寝やおしゃべりを楽しむ等自由に過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の冷蔵庫の中身を見て、担当職員が利用者に希望を聞きながら、献立を決め、買い物にも一緒に出かけている。野菜の頂き物も多く、庭の野菜も利用した新鮮な食材を、利用者と職員と一緒に下ごしらえや味付け等調理している。食事と同じテーブルでゆっくり会話を楽しみながら一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴も可能で、周期や回数を決めることなく、利用者の生活習慣やペースに合わせた入浴を行なっている。体調を考慮して足浴やシャワー浴等も可能で、自由な対応が功を奏して入浴拒否の利用者もあまりいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は以前の生活習慣を活かし、ぞうきん縫いや洗濯物たたみ、庭の草抜き、調理等を職員と一緒にやっている。また利用者同士でトランプをしたり、季節の作品作りを楽しんでいる。職員は生活習慣でもあった梅干しや干し柿、庭での野菜作りを通して利用者の張り合いや喜びの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気に合わせて、近隣の散歩や買い物に出かけている。時々ドライブや外食、職員と一緒に作った弁当持参でのお花見等にも出かけている。隣接のデイサービスや施設の利用者とも顔馴染みで、お互いに行き来し交流している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけず、センサーで対応している。鍵をかけないことについては家族にも説明し理解を得ている。利用者が出かけた様子を感じたら、職員が付き添い、散歩等で対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に一度、隣接の法人内施設が主に行っている夜間を想定した避難訓練に参加している。またビデオでの研修も行っている。法人敷地を地域の一時避難場所として提供し、職員は地域の防災訓練にも参加している。ホームでは全職員が普通救命講習を受講しており、運営推進会議で報告している。	○	法人として防災対策には積極的に取り組んでいますが、ホーム独自でも利用者と一緒に避難経路を確認し、定期的に昼夜を想定した避難訓練を実施してはいかがでしょうか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事摂取量は毎回記録に残し、水分量も摂取時間毎に記録している。魚の場合は利用者の状態や希望に応じて骨のあるものとなないものを選択してもらっている。個々に応じて刻みやミキサー食、栄養補助剤で提供している。3か月に一度は法人施設の栄養士に栄養バランスのチェックを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節の花が咲き、野菜も植えられている。リビングは広くホームの中央に位置し、歩行やリハビリをしやすいように周りにスペースや手すりを設けている。対面式キッチンに居ながら、リビング全体が見渡せ、適所にソファや椅子を置き、好きな場所で寛ぐことが出来ている。壁には職員と協働の季節の貼り絵や、利用者の作品が貼られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は車椅子対応も可能な開き戸で扉の幅も広く、ベッドはホームが用意している。利用者は、家具、テレビ、机や椅子、時計、人形等馴染みの品を持参され、居心地良く過ごせる工夫をされている。		